

石 議 議 第 6 1 号 の 2

令 和 8 年 6 月 1 6 日

議 員 各 位

石川県議会議長 不 破 大 仁

質 問 趣 意 書 及 び 答 弁 書 の 配 付 に つ い て

6 月 8 日、佐藤正幸議員より石川県議会会議規則第 6 5 条第 1 項の規定に基づき知事に対する文書質問があったので、同条第 4 項の規定により、質問趣意書及び答弁書を別添のとおり配付します。



令和8年6月8日

石川県議会議長
不破大仁 殿

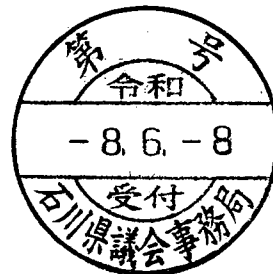
石川県議会議員 佐藤正幸

質問趣意書

石川県議会会議規則第65条第1項の規定に基づき、下記のとおり文書
質問したいので、質問趣意書を提出します。

記

- 1 質問事項
別紙のとおり
- 2 指定答弁者
別紙のとおり



質 問 事 項	指 定 答 弁 者
1 復興公営住宅における家賃算定について 市町が震災の影響を十分考慮した市町村立地係数を採用した家賃にした場合でも、差額を国が補填するような支援をしてほしいと考えるがどうか。	知 事
2 災害復旧工事における「復興係数」の適用について 東日本大震災や熊本地震などで導入された積算額と支出実態の乖離を補正する「復興係数」の適用を国に要望すべきと考えるがどうか。	知 事
3 農地等手づくり復旧支援事業について 農家自ら施工した箇所に不備や不具合が出た場合、その復旧は追加申請できるのか。また、こうした追加分も補助対象とすべきと思うがどうか。	知 事
4 災害関連地域防災がけ崩れ対策事業について 現在どの程度の事業が採択されているのか。また、当初交付決定した事業費から増額できないと聞くが、改善すべきではないか。	知 事
5 大阪から和倉温泉までの特急復活について 特急復活に向けた問題の解決にあたっては、地元負担が生じないよう、ＪＲ西日本と国の責任において解決すべきと考えるが、県の姿勢を聞く。	知 事



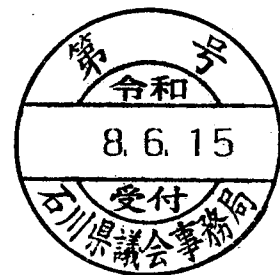
財 第 6 8 号
令和8年6月15日

石川県議会議長
不 破 大 仁 様

石川県知事 山 野 之 義

文書質問について（回答）

令和8年6月8日付石議議第57号による質問趣意書について、別紙のとおり回答します。



(別紙)

1 復興公営住宅における家賃算定について

市町が震災の影響を十分考慮した市町村立地係数を採用した家賃にした場合でも、差額を国が補填するような支援をしてほしいと考えるかどうか。

市町が特別な係数を採用して低減した家賃と、通常の算定方法による家賃との差額については、国の支援制度はなく、現時点で市町から補填を求める要望もない。

市町から具体の相談があれば、国・県・市町が参加する会議などにおいて、国に伝えてまいりたい。

2 災害復旧工事における「復興係数」の適用について

東日本大震災や熊本地震などで導入された積算額と支出実態の乖離を補正する「復興係数」の適用を国に要望すべきと考えるかどうか。

能登地域の厳しい現場条件での作業効率の低下に伴う、工事費増加に対応するため、以前より国に要望してきた「復興歩掛」が、今年度導入された。「復興係数」についても、引き続きあらゆる機会を捉えて国に要望してまいりたい。

3 農地等手づくり復旧支援事業について

農家自ら施工した箇所の不備や不具合が出た場合、その復旧は追加申請できるのか。また、こうした追加分も補助対象とすべきと思うかどうか。

農家自ら施工した箇所において、営農再開に伴い、地震や豪雨に起因すると思われる不具合が新たに判明した場合については、追加で申請することが可能である。

4 災害関連地域防災がけ崩れ対策事業について

現在どの程度の事業が採択されているのか。また、当初交付決定した事業費から増額できないと聞くが、改善すべきではないか。

災害関連地域防災がけ崩れ対策事業は、これまでに輪島市24件、七尾市5件、能登町2件、穴水町2件の計33件が採択されている。

当該事業において、事業費の増額が必要となった場合には、市町の事情に応じて別途事業により対応することができる。

5 大阪から和倉温泉までの特急復活について

特急復活に向けた問題の解決にあたっては、地元負担が生じないように、ＪＲ西日本と国の責任において解決すべきと考えるが、県の姿勢を聞く。

大阪・和倉温泉間の直通特急について、ＪＲ西日本は、和倉温泉の復興を前提に、臨時便の運行について検討を進めており、交直両用の列車の確保などの様々な課題の解決にあたっては、できる限り地元負担が生じない形が望ましいと考えているが、能登の復興を促進するという観点も踏まえ、直通特急の実現に向けてＪＲ西日本と協議してまいりたい。

また、国に対し、旅客列車の運行の増加により貨物線路使用料が減少する現行の貨物調整金制度の見直しについて働きかけてまいりたい。